

きつつきの商売

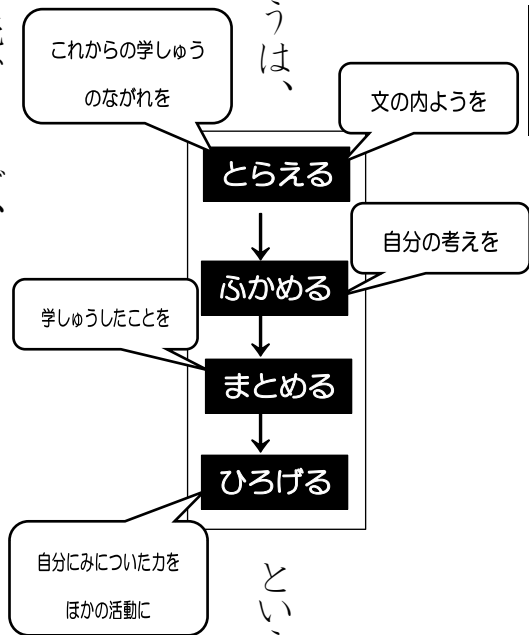
林原 玉枝 作・村上 康成 絵

オリエンテーション

◎「きつつきの商売」では、**読む力**をつける学しゅうをします。

読む力

をつける学しゅうは、

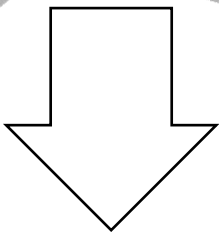


というながれですすみませす。

◎この「きつつきの商売」を読むことで、

- ①場面のようすを思いうかべながら（そうぞうしながら）、音読する力。
- ②文しよようを読んで、登場人物の気もちを考える（そうぞうする）力。

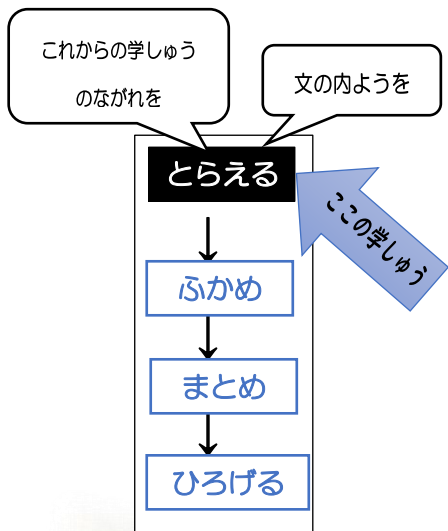
という二つの**読む力**をつける学しゅうをしていきます



大じょうぶです。あん心しましよ。

国語は、文しよようの中に手がかりやヒントがあります。これから、教科書に書いてある文とにらめっこをしたり、毎日声に出して文しよようを読んだり（音読したり）して、一つ一つ、学しゅうをすすめると、みるみる国語の力がみについていきます。

では、学しゅうをはじめましょう。



◎学しゅうでつかうば(用語)のよつしんのかくにん

*百五十九ページを見て【】に当てはまることばを書きましよう。

用語	いみ
登場人物	お話(物語)に出てくる人・もの
場面	物語にあるいくつかの【】。【】や場 しよ、登場人物の【】などひとまとまりに なっていることが多い。

◎教科書十六ページから二十五ページを、三回音読しましよう。

回数	何をしながら読むか	読んだら○に色をぬろう。
一回目	登場人物に○をつけながら音読する。 *だれかな? □に登場人物を書こう。 の家族 *父さんねずみ *母さんねずみ *子ねずみたち (十びき)	1
二回目	お話の中で「一番すきなところ」をさがしながら、音読する。 *「一番すきなところ」を「きそらんだら、そのことばや文のうらなを書きこもう。」	2
三回目	お話がつたわるように音読するために、「くふうして読んだ方がいいな」と思うことばや文に——をつけながら音読する。	3